

出雲商工会議所管内 業種別景況（令和6年10月～12月期）

《全 業 種》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期（令和5年10～12月）と比べた 今期（令和6年10～12月）の状況				前期（令和6年7～9月）と比べた 今期（令和6年10～12月）の状況				今期（令和6年10～12月）と比べた 来期（令和7年1～3月）の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売 上 高	24.1	37.9	37.9	△ 13.8	39.7	39.7	20.7	19.0	22.4	32.8	44.8	△ 22.4
2 採 算	12.5	55.4	32.1	△ 19.6	16.1	60.7	23.2	△ 7.1	12.7	47.3	40.0	△ 27.3
3 仕 入 単 価	73.7	22.8	3.5	70.2	61.4	35.1	3.5	57.9	50.0	41.1	8.9	41.1
4 従 業 員 数					1.8	94.5	3.6	△ 1.8	1.9	90.7	7.4	△ 5.6
5 資 金 繰 り					3.7	75.9	20.4	△ 16.7	7.5	62.3	30.2	△ 22.6

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		13.8	48.3	37.9		-24.1		31.0	48.3		20.7	10.3		1.7

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売 上 ・ 受 注 の 減 少	40.0	10.0	6.7	56.7	8 設 備 店 舗 の 狭 小 ・ 老 朽 化	1.7	8.3	8.3	18.3
2 大 企 業 進 出 に よ る 競 争 激 化	1.7	3.3	6.7	11.7	9 取 引 条 件 の 悪 化	0.0	0.0	3.3	3.3
3 製 品 ・ 商 品 単 価 の 下 落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事 業 資 金 の 確 保 難	1.7	3.3	11.7	16.7
4 原 材 料 高 及 び 不 足	20.0	23.3	10.0	53.3	11 需 要 の 停 滞	5.0	18.3	16.7	40.0
5 在 庫 製 品 ・ 商 品 の 過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円 相 場 に 伴 う 経 営 へ の 影 響	0.0	0.0	5.0	5.0
6 人 手 不 足	8.3	8.3	10.0	26.7	13 そ の 他	8.3	1.7	1.7	11.7
7 人 件 費 の 増 加	5.0	10.0	1.7	16.7	無 回 答	8.3	13.3	18.3	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

《 製 造 業 》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期（令和5年10～12月）と比べた 今期（令和6年10～12月）の状況				前期（令和6年7～9月）と比べた 今期（令和6年10～12月）の状況				今期（令和6年10～12月）と比べた 来期（令和7年1～3月）の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売 上 高	22.2	33.3	44.4	△ 22.2	55.6	44.4	0.0	55.6	33.3	22.2	44.4	△ 11.1
2 採 算	25.0	25.0	50.0	△ 25.0	37.5	37.5	25.0	12.5	57.1	42.9	0.0	57.1
3 仕 入 単 価	88.9	0.0	11.1	77.8	55.6	33.3	11.1	44.4	25.0	62.5	12.5	12.5
4 従 業 員 数	/	/	/	/	0.0	75.0	25.0	△ 25.0	12.5	87.5	0.0	12.5
5 資 金 繰 り	/	/	/	/	0.0	71.4	28.6	△ 28.6	42.9	57.1	0.0	42.9

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		22.2	22.2	55.6		△ 33.3		22.2	33.3		44.4	△ 22.2		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売 上 ・ 受 注 の 減 少	55.6	0.0	11.1	66.7	8 設 備 店 舗 の 狭 小 ・ 老 朽 化	0.0	11.1	33.3	44.4
2 大 企 業 進 出 に よ る 競 争 激 化	0.0	0.0	0.0	0.0	9 取 引 条 件 の 悪 化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製 品 ・ 商 品 単 価 の 下 落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事 業 資 金 の 確 保 難	0.0	11.1	11.1	22.2
4 原 材 料 高 及 び 不 足	11.1	44.4	11.1	66.7	11 需 要 の 停 滞	0.0	11.1	22.2	33.3
5 在 庫 製 品 ・ 商 品 の 過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円 相 場 に 伴 う 経 営 へ の 影 響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人 手 不 足	11.1	0.0	11.1	22.2	13 そ の 他	22.2	0.0	0.0	22.2
7 人 件 費 の 増 加	0.0	22.2	0.0	22.2	無 回 答	0.0	0.0	0.0	—

注) 「全体」 = (1位 + 2位 + 3位を選んだ回答数) / 全回答数

3、業界内のトピック、今後の課題・方針など（調査対象事業所からの意見等）

- ・ 米の値上がりによる販売価格値上げにより、既存客の離脱があった。今年も在庫がないようで今後に不安。生産性の向上と人材育成に取り組む。（めん類製造業）
- ・ 営業、印刷、製本の現場の人材獲得をして、受注売上の強化を図る。HPやLPの製作など、早く便利なツールとしての提案を推し進めていく。（印刷業）
- ・ 必要となる資格の取得に重点を置き、社員に勧めている。（看板・標識機製造業）

《建設業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期（令和5年10～12月）と比べた 今期（令和6年10～12月）の状況				前期（令和6年7～9月）と比べた 今期（令和6年10～12月）の状況				今期（令和6年10～12月）と比べた 来期（令和7年1～3月）の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	25.0	50.0	25.0	0.0	12.5	50.0	37.5	△ 25.0	37.5	25.0	37.5	0.0
2 採算	12.5	62.5	25.0	△ 12.5	12.5	75.0	12.5	0.0	12.5	62.5	25.0	△ 12.5
3 仕入単価	71.4	28.6	0.0	71.4	28.6	71.4	0.0	28.6	42.9	57.1	0.0	42.9
4 従業員数	/	/	/	/	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	87.5	12.5	△ 12.5
5 資金繰り	/	/	/	/	0.0	87.5	12.5	△ 12.5	12.5	50.0	37.5	△ 25.0

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D・I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		12.5	62.5	25.0		△ 12.5		37.5	37.5		25.0	12.5		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	50.0	12.5	12.5	75.0	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	0.0	0.0	0.0
2 大企業進出による競争激化	0.0	12.5	0.0	12.5	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	0.0	12.5	12.5
4 原材料高及び不足	25.0	0.0	0.0	25.0	11 需要の停滞	0.0	25.0	12.5	37.5
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	12.5	25.0	25.0	62.5	13 その他	0.0	0.0	0.0	0.0
7 人件費の増加	0.0	12.5	0.0	12.5	無回答	12.5	12.5	37.5	—

注) 「全体」 = (1位 + 2位 + 3位を選んだ回答数) / 全回答数

3、業界内のトピック、今後の課題・方針など（調査対象事業所からの意見等）

- ・ 資材の値上げが利益を圧迫している。値上げが急激なため、工事価格が追いついていない。デジタル化による効率アップに重点を置きたい。（一般土木建築工事業）
- ・ 受注物件はあるが、人手不足のため受注できない。若手社員が入ってこない。（土木工事業）
- ・ 元請けの仕事の減少。大工の高齢化（外注先の確保困難）。大工職人の高齢化。（一般土木建築工事業）
- ・ 人材を確保して業務の拡大等を行いたい人材確保が難しい。（電気通信工事業）
- ・ 経済の冷え込み、物価高、エネルギー価格の上昇。2025年4月の建築基準法改正での停滞、値上げなどによる受注減少。（木造建築工事業）

《卸 ・ 小 売 業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況 (前年同期と前期との比較)								II 来期の見通し			
	前年同期 (令和5年10~12月) と比べた 今期 (令和6年10~12月) の状況				前期 (令和6年7~9月) と比べた 今期 (令和6年10~12月) の状況				今期 (令和6年10~12月) と比べた 来期 (令和7年1~3月) の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売 上 高	25.0	43.8	31.3	△ 6.3	62.5	12.5	25.0	37.5	31.3	12.5	56.3	△ 25.0
2 採 算	12.5	62.5	25.0	△ 12.5	12.5	62.5	25.0	△ 12.5	6.3	37.5	56.3	△ 50.0
3 仕 入 単 価	62.5	37.5	0.0	62.5	62.5	37.5	0.0	62.5	56.3	37.5	6.3	50.0
4 従 業 員 数	/	/	/	/	6.3	93.8	0.0	6.3	0.0	93.3	6.7	△ 6.7
5 資 金 繰 り	/	/	/	/	6.3	68.8	25.0	△ 18.8	0.0	60.0	40.0	△ 40.0

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I (業況判断指数) とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		12.5	56.3	31.3		-18.8		31.3	68.8		0.0	31.3		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売 上 ・ 受 注 の 減 少	33.3	16.7	5.6	55.6	8 設 備 店 舗 の 狭 小 ・ 老 朽 化	5.6	5.6	0.0	11.1
2 大 企 業 進 出 に よ る 競 争 激 化	5.6	0.0	5.6	11.1	9 取 引 条 件 の 悪 化	0.0	0.0	5.6	5.6
3 製 品 ・ 商 品 単 価 の 下 落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事 業 資 金 の 確 保 難	5.6	0.0	16.7	22.2
4 原 材 料 高 及 び 不 足	22.2	16.7	11.1	50.0	11 需 要 の 停 滞	5.6	22.2	16.7	44.4
5 在 庫 製 品 ・ 商 品 の 過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円 相 場 に 伴 う 経 営 へ の 影 響	0.0	0.0	5.6	5.6
6 人 手 不 足	5.6	11.1	5.6	22.2	13 そ の 他	0.0	5.6	0.0	5.6
7 人 件 費 の 増 加	5.6	5.6	5.6	16.7	無 回 答	11.1	16.7	22.2	—

注) 「全体」 = (1位 + 2位 + 3位を選んだ回答数) / 全回答数

3、業界内のトピック、今後の課題・方針など (調査対象事業所からの意見等)

- ・ ワークマン、ホームセンター、ネット通販との競合。最低賃金引上げ、石油値上げ等による仕入単価の上昇。取扱品目を増やし、全体での売上増加を目指す。(呉服・服地小売業)
- ・ 同じブランドを扱う新店舗のオープンが続いている。物価高による買い控え対策として、値上げされていない物を選んで仕入れるようにする。(婦人服小売業)。
- ・ 原材料の高騰が続いており、同じ商圏に競合店が増加した。(菓子小売業)
- ・ 人手不足が懸念されるが、昨年より同業者とタイアップし、自社で出来ないことも連携する現場が多くなった。売上に繋がっており助かっている。(電気機械器具小売業)

《サービス業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期（令和5年10～12月）と比べた 今期（令和6年10～12月）の状況				前期（令和6年7～9月）と比べた 今期（令和6年10～12月）の状況				今期（令和6年10～12月）と比べた 来期（令和7年1～3月）の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	38.5	38.5	23.1	15.4	30.8	61.5	7.7	23.1	7.7	61.5	30.8	△ 23.1
2 採算	15.4	69.2	15.4	0.0	15.4	76.9	7.7	7.7	7.7	61.5	30.8	△ 23.1
3 仕入単価	61.5	38.5	0.0	61.5	53.8	46.2	0.0	53.8	38.5	38.5	23.1	15.4
4 従業員数	/	/	/	/	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
5 資金繰り	/	/	/	/	0.0	92.3	7.7	△ 7.7	0.0	92.3	7.7	△ 7.7

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		15.4	69.2	15.4		0.0		46.2	46.2		7.7	38.5		7.7

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	30.8	0.0	7.7	38.5	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	15.4	7.7	23.1
2 大企業進出による競争激化	0.0	7.7	23.1	30.8	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	7.7	7.7
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	0.0	0.0	0.0
4 原材料高及び不足	15.4	23.1	0.0	38.5	11 需要の停滞	7.7	23.1	7.7	38.5
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	15.4	15.4
6 人手不足	7.7	0.0	7.7	15.4	13 その他	15.4	0.0	0.0	15.4
7 人件費の増加	7.7	7.7	0.0	15.4	無回答	15.4	23.1	23.1	—

注) 「全体」 = (1位 + 2位 + 3位を選んだ回答数) / 全回答数

3、業界内のトピック、今後の課題・方針など（調査対象事業所からの意見等）

- ・ 個人で代わりがないため、体調不良による仕事の停滞が最大の不安。相談顧客の人材不足を解消できるデジタル化を提案していく。（経営コンサルタント業）
- ・ 海外旅行をする方も増えてきて、県内旅行や国内旅行以外のニーズにPRが必要。（宿泊業）
- ・ 市内に安価のチェーン店が進出してきており、当店のお客様でも利用されている方がいる。新規客獲得に向けて、自身のスキルアップやこまめなPRを心掛ける。（美容業）
- ・ 人材確保が最重要課題。若いスタッフが長く楽しく働ける環境を作ることで、お客様を呼びこむこともでき、地域活性化につながると思っている。（美容業）

《 飲 食 業 》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期（令和5年10～12月）と比べた 今期（令和6年10～12月）の状況				前期（令和6年7～9月）と比べた 今期（令和6年10～12月）の状況				今期（令和6年10～12月）と比べた 来期（令和7年1～3月）の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売 上 高	8.3	25.0	66.7	△ 58.3	25.0	41.7	33.3	△ 8.3	8.3	41.7	50.0	△ 41.7
2 採 算	0.0	45.5	54.5	△ 54.5	9.1	45.5	45.5	△ 36.4	0.0	36.4	63.6	△ 63.6
3 仕 入 単 価	91.7	0.0	8.3	83.3	91.7	0.0	8.3	83.3	75.0	25.0	0.0	75.0
4 従 業 員 数	/	/	/	/	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	80.0	20.0	△ 20.0
5 資 金 繰 り	/	/	/	/	10.0	60.0	30.0	△ 20.0	0.0	40.0	60.0	△ 60.0

注) ↑ 増加・上昇・過剰・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・不足・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		8.3	25.0	66.7		-58.3		16.7	41.7		41.7	-25.0		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売 上 ・ 受 注 の 減 少	41.7	16.7	0.0	58.3	8 設 備 店 舗 の 狭 小 ・ 老 朽 化	0.0	8.3	8.3	16.7
2 大 企 業 進 出 に よ る 競 争 激 化	0.0	0.0	0.0	0.0	9 取 引 条 件 の 悪 化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製 品 ・ 商 品 単 価 の 下 落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事 業 資 金 の 確 保 難	0.0	8.3	16.7	25.0
4 原 材 料 高 及 び 不 足	25.0	33.3	25.0	83.3	11 需 要 の 停 滞	8.3	8.3	25.0	41.7
5 在 庫 製 品 ・ 商 品 の 過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円 相 場 に 伴 う 経 営 へ の 影 響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人 手 不 足	8.3	8.3	8.3	25.0	13 そ の 他	8.3	0.0	8.3	16.7
7 人 件 費 の 増 加	8.3	8.3	0.0	16.7	無 回 答	0.0	8.3	8.3	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

3、業界内のトピック、今後の課題・方針など（調査対象事業所からの意見等）

- ・ 人手（バイト）を増やすよりも、やる気のある経営者候補を増やして、自家製ラーメン店の共同化・グループ化を推進し、のれん分け制で出雲の飲食を盛り上げたい。（ラーメン店）
- ・ 来客数が減少。ふるさと返礼品の注文増で何とかカバーしている状況。物価はどんどん上がるでしょうがメニューは上げられません。（西洋料理店）
- ・ 野菜を中心にものすごい物価高の中、質を落とさずどう販売していくか。値上げも検討。お店が成長できるよう変化していきたい。（喫茶店）
- ・ 団塊の世代の方々の引退。よく出ておられた方々が来られなくなった。若い方は少ない。酒離れの感じます。（酒場、ビヤホール）